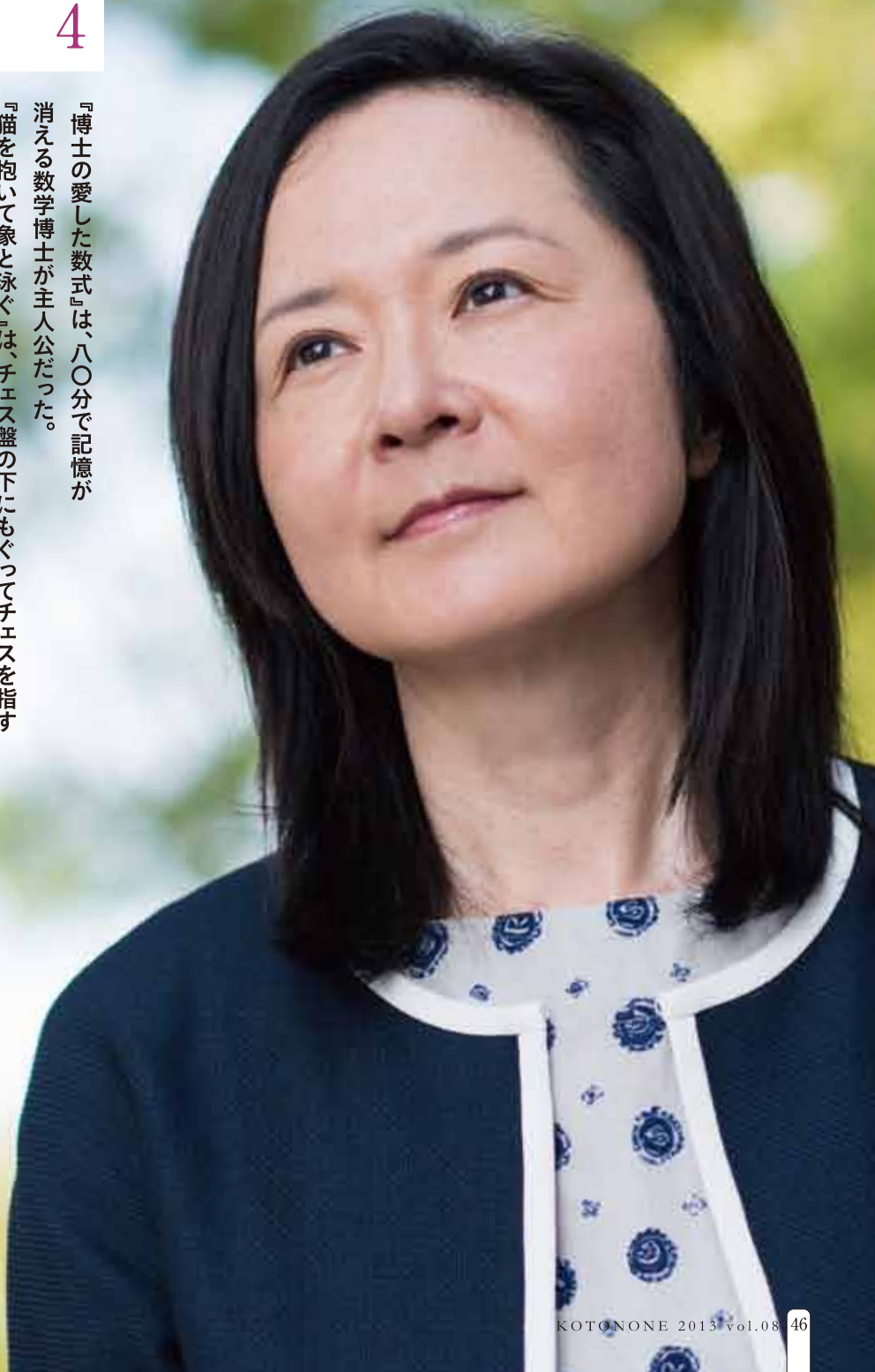
ぶっちゃけインタビュー 4

作家 小川洋子さん（おがわ ようこ）

小さきもの、遠きものの歌声

『博士の愛した数式』は、八〇分で記憶が消える数学博士が主人公だった。
『猫を抱いて象と泳ぐ』は、チェス盤の下にもぐってチェスを指す小人のような男の物語だった。
近著『ことり』は、小鳥の言葉しか話せないお兄さんと、その弟の話だった。
わたしは、勝手に小川洋子さんの「障害者三部作」と呼んでいる。
小川さんは、障害者を描こうとしたわけではない、と思っていたが、それだけに、障害者の視点で聞いてみたかった。



里見喜久夫（『コトノネ』編集部）＝インタビュー
interviewer.text by Kikuo Satomi
岸本 剛＝写真
photograph by Tsuyoshi Kishimoto